

# 🍷 幻のコーヒー生産地を訪ねて 🍷

2008年2月7日 JICA 草の根技術協力:Vol.1

スリランカフェアトレードプロジェクトが幻のコーヒー生産地をたびたび訪れています。現地駐在員も置き、活動が本格化してきました。2007年11月に訪れた「幻のコーヒー生産地」について、簡単なお報告をします。

フェアトレードの本事業は JICA の草の根技術協力事業として採択され、委託された事業です。

[http://www.jica.go.jp/partner/kusanone/shien/detail/sri\\_05.html](http://www.jica.go.jp/partner/kusanone/shien/detail/sri_05.html)



## 🍷 「幻のコーヒー生産地」 山岳農民 コットマレーとは、どんなところか？ 🍷

スリランカを中心に位置する最後のシンハラ王朝キャンディー。その世界文化遺産でもある古都キャンディーから3時間ほど車で細い道を上り、標高1000M以上の山岳地帯に位置します。村人の年収は一世帯平均約2万ルピー(=約21,000円)であり、現金収入の少ない貧困地域です。

## 🍷 村の名前は「ラヴァナゴダ村」 🍷



この村は人口580人164世帯です。コーヒーの栽培適地として考えられ、高品質で希少価値の高いコーヒー生産地として期待されています。現地政府機関である農業省農業輸出局も着目し、これまで農業指導者たちは、農業改良普及の方法としてコーヒー生産、とりわけアラビカ種の普及に力を入れてきました。

## 🍷 スリランカは 過去140年前まで 世界で有数のコーヒー 一大生産地 🍷

現在は世界でインドに次ぐ生産を誇り、紅茶で有名なセイロン紅茶になったのは、140年前です。その前はコーヒーの一大産地で世界への貿易品でした。最も早いコーヒー生産地のアラビア半島イエメンのモカコーヒーがその源流になります。



## 🍷 スリランカフェアトレードプロジェクトの仕事 🍷

スリランカでの私たちの仕事は、以前のコーヒー生産地だったアラビカコーヒー生産を起こすことを目的としています。これまで、スリランカ農業輸出局の指導はあっても、コーヒー農家として、経営は成り立たない状況です。私たちが訪問した時は、村人はコーヒー生産意欲を欠いていました。



## 🍷 プロジェクトの目標 🍷



村人の主な問題点は、コーヒーの品質にとって当面する最も重要な栽培、収穫技術や乾燥・調整法にあり、この問題を解決して農民の生産意欲を向上させることです。

コーヒー豆の選別と乾燥・調整に必要な資機材が整い、アラビカ種の生産環境と体制が整うための支援を行うことです。

そして、最終目標は、彼らの手でコーヒー生産地として自立し、誇りを持ち、自らの力で貧困からの脱出です。

## 🍷 11月24日の コットマレーコーヒー 🍷

豆は赤い実になり始めていた。村人の農家の夫婦が、自分達が生産し収穫したコーヒー豆を見てくれと、手に抱え誇らしげに、恥ずかしそうな表情とが入りまじっていた。

